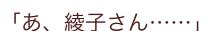
## PV公開記念ショートストーリー

## 『島﨑信長様』

## ▲ 間じる ▲



「どうしたの、タッくん?」

「どうしたもこうしたも……なんですか、このタイトル?」

「あらタッくん、まさか島﨑信長様を知らないの?」

「いや、それは知ってますよ。有名な声優さんじゃないですか……」

「そうっ、第一線で活躍する超人気イケメン有名声優さんよ!」

「そんな人の名前が、なぜこのSSのタイトルに……」

「ほら、最近『ママ好き』のPVが作られたでしょう? ちゃんと声優さんが声を当ててくれる、本格的でお金のかかったPV。そのPVでのタッくんの声が……なんと島﨑信長様なのよ!」

「そ、そうらしいですね。俺の声、島﨑さんがやってくださるみたいで」

「島﨑様にはね……ほんと、感謝してもしきれないぐらいだわ。今回のPVを引き受けてくださったことはもちるん、ママ好きの一巻が発売したときには……なんとツイッターで感想を言ってくださったの!」

「あれは驚きましたよね」

「驚いたし、感動したわ。感涙したかもしれない。まさかあの島﨑信長様が……SA○のユージオが『ママ好き』を読んでくれているなんて……!」

「……SA○の場合、そこを○で伏せてもあんまり伏せ字の意味ないですよ」

「島﨑様のツイート、反響がすごかったもんね。ママ好きのヒットの半分は島﨑様のおかげと言っても過言では ないぐらいよ。二度と足を向けて眠れないわ。恐れ多くて様をつけずにはいられない」

「ま、まあ、ありがたい限りですよね」

「PVの声優を誰にお願いするかってなったとき、一応声優さんの希望みたいなのも訊かれたのよ。こういうのってオーディションとかのステップを踏んで決まるアニメと違って、出版サイドから『○○さんにお願いできますでしょうか?』ってオファーをすることが多いからね。もちろん希望が必ず通るわけじゃないんだけど。『ママ好き』の場合……声優の希望を尋ねられたとき、作者、イラストレーター、担当編集の三人が口を揃えて『タッくんは島﨑さんで!』と即答したらしいわ」

「満場一致!?」

「三人の心が一つになった瞬間ね」

「なんでそんな……いや、なんていうか、一応『ママ好き』って、綾子さんがメインじゃないですか。作品の顔っていうか、一番アピールすべきポイントっていうか。だったら制作陣が声優の希望出す場合も、まずは綾子さんの声優に希望を出すべきじゃ……」

「今回は、なによりもまず島﨑様への思いが勝ってしまった感じね」

「……それでいいんですか?」

「というわけで、島﨑信長様がタッくんを演じてくださる『ママ好き』のPV、どうぞよろしくお願いします!」

「お、お願いします。いやでも、本当にいいんですか、これで? 俺の声優さんばっかりで、綾子さんの声をやってくださる声優さんのことも、ちゃんと伝えないと……」

「……実はね、タッくん。この手のPVってのは、いろいろバタバタするのが世の常でね。いろいろとギリギリで決まるのが普通なのよ」

「はあ」

「だからね、このSSを書いてる段階では……まだ私の声優が決まってないの」

「そ、そんな裏事情が……」